

子宮頸がん委員会の活動目標

この度、子宮頸がん委員長を拝命致しました藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院の今枝義博です。当委員会の目的は子宮頸がん検診の精度と受診率の向上を図り、国民・行政・教育・医療機関に子宮頸がん検診の重要性の理解を求め、国民の健康に寄与することです。

精度向上には採取器具を綿棒からブラシへの切り替え、将来的にはLBCの普及が不可欠です。まず、ブラシへの変更は細胞診断学的有用性を婦人科の先生方に改めて啓発することが必要です。次に、LBCが普及していない理由として、加算点数がコストに見合った点数でないことがあると思います。この加算点数を上げるためには、LBCの臨床的有用性やコストエビデンスを作成し、日本臨床細胞学会から内保連に提案し、最終的に中医協で承認して頂くこととなります。当委員会ではこの臨床的有用性とコストエビデンス（人件費・試薬・消耗品・機器など）の集計方法を確立し、全国的な調査を実施したいと思います。そして、2年後には日本臨床細胞学会に提案することを目標とします。また、今までに調査してきた案件に関しても再検討致します。

受診率の向上では各都道府県が同じような活動ができるよう尽力します。Love49の活動は殆どの都道府県で実施できていますが、そうでない県もあります。まず、この活動を全国で活発に実施できるようにします。次に、すでに実施されている各都道府県臨床検査技師会主催の健康フェアなどに協力していく事を目標にします。そのためには、日本臨床衛生検査技師会長、各都道府県臨床検査技師会長、細胞学会支部代表者と連携し、全国で使用できるポスターなどを準備して啓発活動をしていきます。

このような精度・受診率の向上を目的とした活動を全国的に実施できるのは当委員会しかないと確信しております。細胞検査士の皆様には、これまで以上に活発な討論・ご意見を賜りたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。